

第3回成田空港緊急戦略プロジェクト会議 概要

- 1 日時 平成22年3月26日（金）午後2時～3時10分
- 2 場所 ポートプラザ千葉2Fロイヤル
- 3 出席者 出席者名簿のとおり
- 4 会議概要

(1) 森田知事あいさつ

成田空港の発着容量22万回となり、様々な国で増便が実現し、また、カタルやアラブ首長国連邦など新たな就航地点も加わった。これにより、バランスの良い国際航空ネットワークの更なる強化が期待される所。

本日は、今までの提案・意見から、緊急的に取り組むべきもの・短期的な成果を見込めるものをピックアップして緊急提言を取りまとめたい。忌憚のない意見を賜りたいので、宜しくお願いします。

(2) 緊急提言（案）について（事務局説明）【資料3・4】

- ・4つの柱『①官民一体となった成田空港のPR強化 ②成田と地方都市を結ぶ国内フィーダー路線のPR・充実 ③空港利用者に対する“おもてなし”機能の向上 ④空港を活用した観光の活性化』を盛り込みたいと考えている。
- ・国体・障害者スポーツ大会などにあわせた切れ目のないPRなど、今後いろいろな案を事務局として鋭意検討していきたい。PRの具体化にあたっては（委員の）皆様の御協力を御願いたい。
- ・今回の緊急提言では、経済活性化や大規模なインフラ整備を伴うものなどは触れていない。今後、中間とりまとめにむけ、成田空港の国際競争力を向上させるインフラや県内経済の活性化に結びつくような施策を検討していきたい。

(3) 成田国際空港利用者意識アンケート結果等について（成田市説明）【資料5】

- ・市で成田空港の成長戦略会議を立ち上げており、空港ターミナルで聞き取り調査を実施した。
- ・その調査の中で、成田新高速鉄道・成田スカイアクセスの認知度を調査したが、35%にとどまり、一方で羽田国際化は70%の方が認知している。こうしたことは課題として今後の対応を考える必要があると思ったところ。
- ・また、どうすれば成田空港を利用するのかという問いに対しては、1番目に「アクセス面の充実」が挙げられた。やはりアクセス面が非常に大きい（ウェイト）と認識したところ。

(4) 成田スカイアクセスの広報について（京成電鉄説明）【資料6】

- ・成田スカイアクセスの認知度向上・イメージ向上を主眼として、様々な媒体での広告を進めていく。また、開業（7月17日）の一ヶ月前からは、スカイライナーの前売り券が発売となるため、利用促進に重点を置いてさらに積極的なPR活動を行う。
- ・また、成田スカイアクセスのPRを推進することで、成田空港事態のPRにも寄与すると認識。様々な方面と協力しながら効果的なPR施策を打っていききたい。
- ・成田市の空港利用者アンケート結果には、大変危機感を持っている。その意味で、緊急提言（案）にある官民一体となったPRに大きく期待している。関係者のみなさまの御理解と御協力を御願いたい。

(5) 22万回記念イベント等について（NAA説明）【NAA資料】

- ・3月28日、成田空港は発着枠が2万回拡大する。翌29日には、空港ターミナル内で発着枠22万回記念イベントを開催し、お客様に飲み物を振る舞い、祝賀ムードを演出、PRしていく。
- ・もう一点は、サンクスキャンペーン。内容としてはオープンな懸賞企画。幅広く皆さんに応募していただき、PRしていきたいと考えている。
- ・最後に駅ゲートの警備員の制服について。3月28日の朝から、駅ゲート警備員の制服をブレザーに変更。イメージアップを図っていききたい。

(6) 意見交換

(千葉県商工会議所連合会)

- ・ICカード1枚で空港出入りの交通機関の決済ができるようにすべきという考え方は大事。
- ・成田空港を利用する国内の人は首都圏の人が圧倒的に多く、スイカ・パスモを利用する。しかし、外国のお客様はそういったカードをもっていない。そこで、こうした人たちに1日券などを発行し、首都圏を行き来できるようにすれば、利便性を高めることが出来るとおもう。こうしたことを考慮にいたらどうか。

(京成電鉄)

- ・今あるICカードの基盤を、外国のお客様にどうやって使っていただくかという仕組みを考えていくことが必要だと考える。

(京成バス)

- ・交通事業者は、長い間各グループが独自のシステムを使ってきた。システムを一本化するには時間がかかる。（ICカード利用は）必要な施策であるが、必要な時間と財政的な問題を乗り越えて実現を図るものと認識している。

(リムジンバス)

- ・空港連絡（高速）バスは、残席管理のため、発券カウンターで乗車券を発行しており、

バス内でのICカードでの決済は行っていない。そのため、発券カウンターでICカードが利用可能とすることについて、出来る限り早急に対処したい。

- ・弊社は羽田空港でもサービスを行っているが、北海道・九州など全国から利用者が来る。ICカードは全国利用可能なものが望ましいと考えており、そうしたところも踏まえてICカード化の検討を進めていきたい。

(多古町長)

- ・成田空港を考えたとき、地域と共存できる開放されたスペースが必要。ヨーロッパにあるようなイベント広場など、地域に密着した空港利用ができるような機能が加わると思う。
- ・また、空港には鉄道・バスなどが集中している。周辺住民も、交通・交流の拠点として使えるような形態を考えてもらえるといいと思う。

(NAA)

- ・空港を地域の拠点と捉えてもらうことは非常に重要なことと考えている。
- ・地域の方に空港に来ていただくために、(地域の)小学生等にパスポートを配布するなどしているが、これからも色々考えていきたい。

(IBEX)

- ・空港の魅力を上げていくためには、空港そのものの利便性有用性を上げていくべき。
- ・羽田国際化といっても成田空港の国際空港としての地位は揺るぎないものと思う。国内フィーダー線を充実させれば、ハブ&スポークで成田空港の魅力は上がっていく。そういった部分をより強化してもらいたい。

(JAL)

- ・成田空港は国際ハブ機能を十分果たしている。これをどうやったら一層高められるかということも必要だと考える。

(NAA)

- ・(成田スカイアクセスの開業により)アクセスが良くなるので、空港会社としては、空港到着後のスピードアップ・時間短縮を図りたい。
- ・既にエスカレーターのスピードアップなどを実施しているが、今後エレベーターの改良やファストトラック等のスピードアップの検討をしていきたい。

(森田知事)

- ・法律面の壁もあり、また、日本人はカジノへの抵抗感があることも承知しているが、成田空港の国際空港としての魅力アップ・羽田との差別化、地元経済活性化に向け、外国人旅行者に限ったカジノ導入を議論に上げてもいいのではないかと考えている。
- ・第1回会議の意見交換で、経営者協会大塚会長からカジノ特区はどうかという意見が

あった。カジノを政財界や地元関係者も含め議論しても良い時期と考えている。

- ・まずは、どういった形態がいいのか、後日、事務局から照会させていただきたい。忌憚のない意見を賜りたい。

(7) 会議終了に際してのあいさつ（森田知事）

今後、緊急提言をもとに、県でもPRをはじめ各種施策に取り組んでいく。バラバラにPRするのではなく、連携して効果的にPRしていきたい。

今年は国体もある。成田空港を大いに使っていただき、成田空港は便利であること、そして千葉県を宣伝していきたい。皆様に御意見頂き、着実に皆様とともに実行していきたい。